

会 議 の 名 称	議員定数・報酬等検討 特 別 委 員 会 議 員 定 数 分 科 会	開 催 月 日 ・ 令 和 6 年 9 月 17 日 開会時間・午前・午後 10 時 00 分 閉会時間・午前・午後 10 時 55 分
出 席 者	安藤 誠 佐藤 健 栗津 明 原 一郎 野口 佳宏 豊島 保夫	
欠 席 者		
オブザーバー		
傍 聴 者		
説 明 の た め に 出 席 し た 者	藤井議会事務局長、浅井議会総務課長、堀議会総務課長補佐、 森議会総務課主任	
協 議 事 項	・過去の協議資料、現状について（県内市議会・人口同規模市 議会の状況）	

豊島座長

議員定数分科会を開会いたします。本日の協議事項は羽島市の議員定数についてのこれまでの協議経過と現状等についてを議題といたします。検討資料としては、事務局から議会改革特別委員会や全員協議会でのこれまでの資料を配布していただきました。また、数値等が変わっておるということもありますので、新たな資料もタブレットに入れていただいております。これらを含めて全体としてどういう方向へ進めていくかという、これから何回も分科会を開いていく予定ですが、それぞれご意見賜りたいと思います。

原委員

資料を拝見させていただいたんですが、瑞浪市がこの資料の時点では定数が 16 人なんですが、2023 年 12 月議会で 14 人になっていると思います。ケーブルテレビでもこの経緯を放映していたので、私自身も見たんですが、やはり現状は住民の皆さんがかなり厳しく見てるんだなというのを肌で感じました。また、直近では山根市が 13 人になっているんですが、これも 2020 年 1 月議会で決定しまして、前回の統一選で 1 名減ということが分かりました。

議会としては市民サービスという部分もあるんですが、住民から見ると、今どこの企業、団体も厳しい人数でやっている状況の中で、議員の議席も緊張感を持ってやっていくことの必要性をこの二つの案件とそれ以降、私自身も勉強していく中で感じたところです。今回は住民の民意もしっかり受け止めて考えないと納得いただけないかと思い、前回の件はリセットして考えたいと思っています。

野口委員長

私は 12 月議会に議案提出したんですよ。委員会の質疑でもお答えさせていただいて、定数 2 人削減するから、常任委員会も三つあるところを二つにしたりということと言ったんです。その気持ち変わらずですね。

進め方としては、いろんな数字見るのもいいですし実際のところ、削減したほうがいいと思いつつもこの資料を見ると、平均は定数 20 人だったりするので、いろんな観点から調べていくのはいいんじゃないかなと思ってますが、皆さんの意見聞きながら、多分個々に削減すべきだとか、削減すべきじゃないとか、いろんな気持ちがあるかと思いますが、全協で川柳議員が私は増やしたいんだというような話もありましたからね。いろんな観点から見ていくのもありなんじゃないかなと思います。原委員のように、再度

	調べて自分の考え方を構築していくのもいいですし、いろんな意見を出し合っていけばいいんじゃないかなと。私はとりあえず定数2人削減という考え方で。 これは議長としてなんですけど、この前に報酬分科会もやってたんですけど、その中では報酬は現状維持という意見と、増やしていくという意見、その増やしていく意見の中に、単に増やしていくというのと、できるかどうかは別にして、今定額だけれども物価とかを鑑みて変動制を、みたいなご意見もあったんですけど、報酬を増やすという判断になるのであれば、定数を減らすのも一つの筋じゃないかなと思ったりもしますけどね。いろんな考え方出し合って構築していけばいいと思います。
栗津委員	前々から定数削減ということが先行していろいろな議論が出ていますけれども、私は定数削減する根拠をもう少し深めていかないといけないというのと、それから報酬を上げると言うと、市民から批判を受けるというか、皆さん怖いというかそういうことだと思うんですけど、そんなこと言ってるんじゃないくて、我々はいいいですけど今後若い方々が議員としてやっていくときに、報酬をもっと上げていかないと、優秀な人は議員を辞めていってしまうと。そうすると議会は何をやっとするということになってしまうかなという気はいたします。議会はあくまでも二代表制ということを認識して市長のチェック機関になっていかないと、議会は存続しなくてもいいと私は思っています。
豊島座長	報酬のところはよく分かりましたが、定数が本題です。
栗津委員	定数削減はまだ資料を見ているところですが、議員1人あたりの人口とか、全てデータが出ていると思うんですが、面積はあんまり関係ないと思うんですけども、それこそ財政力指数、将来負担比率、ラスパイレス指数、こういうのを理解して定数削減が本当に必要なのかということを、時間をいただきたいなと。今日はあまり意見は言えません。
安藤委員	商工会議所からの資料も出ていますが、やっぱり市民の厳しいご意見もありますので、私も議長と一緒に2名削減で、皆さんとまたこれから議論を深めて、結果を出していきたいなと思っております。
佐藤委員	私はそもそも公約として定数を削減しますと言った立場

	があります。ですから1人削減とか2人削減とか、具体的数字として出ていますが、削減数は別として削減するスタンスは変わりません。 今問題になっているものを整理すると、1人削減か2人削減かもっと削減するのか、2人増やすべきという意見もありましたよね。結局いろんな意見が出ています、維持すべきだという意見もあると思いますし。その中で一番多いのが減らすという方向だと思います。どうするかなんですけれど先ほど市民の意見じゃなくて議会の意見でという話もあったと思うんですけど、私は市民あつての議会だと思いますから、市民の気持ちに沿ってやったらいいんじゃないかなと思います。あと、1人削減の議案を出したときに他の人に言われてやったんじゃないかという話もあったんですけど、他の議員の言いなりになって出したわけじゃなくて、あくまで私が何回もお願いをしてそれで出したという経緯がありますのでそこだけ余談ですけど触れておきたいと思いました。
豊島座長	前は議会改革特別委員会がとりまとめ、全体場で報告して、市民団体にも報告がいききました。先ほど原委員が言われたように新しいメンバーなので、リセットということで、やっぱりデータの的にも勉強をしっかりとしていきたいということに私も賛成です。そういうことから、現状についてそれぞれのご意見を承りました。 今後、データのことも含めて、どういうふうな進め方をしていったらいいか、内容もきちんとしていきたいと思いますが。進め方について、削減や維持、増員という択一的な賛否で簡単に決めるならもう開かなくてもいいですから。そうではなく今度はどういったことを調査したらいいかということでご意見ありましたら。
原委員	前回、商工会議所と市民団体に報告したような形で、この分科会においてはなぜそうしたのか根拠を示すことが必要かなと思っていて、多分この分科会でも割れると思うので、それぞれ注目する根拠を見つけることが大事かなと思います。方向が一緒じゃなくても、それぞれで根拠を示すことを最終目標としていくことが大事かなと思います。
豊島座長	前回もメリットデメリットということで、箇条書きで精査して報告書を作っていただきまして、やはり見やすいということもありますので、そういうことからたどり着いた

	一つの結論だったと思います。
佐藤委員	報酬の話が出たので一言だけ申し上げておきたいんですけど、報酬は市民の平均所得と比べたら多分高いと思うんですね、だから私は下げるべきだというふうにすごく思っておりまして、上げるのが大前提みたいになっているのはどうなのかなと、そこだけ申し上げておきたいと思います。
野口委員長	佐藤委員、それは違うよ。報酬分科会ではそういうふうになっているというだけであって、それは分科会に任せるべきだと思うよ。俺は議長として皆さんに進捗をお伝えしたただけなので、そこはご理解をいただきたいと思います。
議会総務課長	報酬分科会で、やるやらないとかではなくアンケートの話が出たんですけど、仮にアンケートとると報酬だけでなく全部とることになるので、定数でもアンケートに対する考え方とか意見があると。やると補正もしくは来年度の当初予算で措置が必要で、事務局も予算の準備をしないといけないので、何かご意見があれば。
野口委員長	市民にアンケートやったら報酬下げろ定数下げろでしょ、結果分かってるよね。現状維持以外は条例を改正する話になるわけですから、パブコメがあるので予算を使ってまで市民にアンケートをとる必要はないかなと思います。
豊島座長	本日資料をいただいたものですから、類似市と県内の状況を委員に勉強していただくということをお願いしたいと思います。それから今後議論を重ねていくと、そのために、委員長に分科会を作っていただいたわけですから、公開だから本音が言えないということではなく、意見をお持ちなんですからそれは出していただくと。
佐藤委員	先ほどアンケートの話が出ましたので、その点について申し上げたいんですが、私はやったほうがいいんじゃないかなと思っています。その理由は、報酬にしても定数にしてもどういった意見を市民がお持ちなのかということを最新の状況で尋ねる必要があるんじゃないかなと思いますので、アンケート実施に賛成です。
豊島座長	やるやらないもこれからで。今日のところは現状についての資料をいただきましたので、各委員が検討いただくと

	ということで。今後、さらに調査進めていく上で資料収集とか、事務局にはお手をかけるかもしれないですが。
野口委員長	調査を進めていくということですが、議員 1 人当たりにもどれだけ税金が投入されているんでしたっけ、歳費以外も含めて。800 万円でしたっけ。
議会総務課長補佐	報酬だけでそれくらいです。
野口委員長	詳しい数字を出してもらいたいなというのがあります。というのは、増やすにしても減らすにしても、どれだけ予算に負担がかかるか軽減できるかとか、数字のイメージがしづらいんですよ。
議会総務課長	次回の分科会までに調査いたします。
栗津委員	同規模人口の資料で、議員 1 人当たりの人口は 5 番目だけでも、これは議員 1 人当たりの人口が 5 番目に多いというわけやな。
議会総務課長	その考えで正しいです。
栗津委員	それで、面積は 50 件中の 32 番目ということやな。ラスパイレス指数は 48 番目やな。
議会総務課長	ラスパイレス指数はいろんな要因で数値が振れるので、あまり参考にはならないかもしれないんですけど。
豊島座長	方向性としては現時点の資料の精読をしっかりとしていただいて。次回について、10 月 7 日の 9 時ということで。以上で終了します。本日はありがとうございました。 【閉会＝午前 10 時 55 分】